



ニュースリリース

平成27年 8月12日
千葉大学 看護学部

平成27年度 千葉大学看護学部公開講座

看護とエビデンス・なぜそれが必要か？—多職種との連携に活かそう—
(専門職向け講座)

一般に数値化できるデータを分析して証明したものを“エビデンス”と言い、エビデンスに基づく医療が不可欠なものになっています。看護の分野でも、“根拠に基づく看護実践”が必要とされています。

数値化しにくいけれども、患者・サービス利用者の主観的な意思を反映した看護実践の研究が蓄積されるようになり、患者・サービス利用者に寄り添う看護ならではの研究が発展しています。

一方、医療安全や患者中心の医療の観点から、多職種の連携協働が求められています。しかし、患者中心の医療が重要と言いながらも、そうならない現実があるようです。専門職間には“エビデンス”の意味するところに違いがあり、それが対立の原因になることもあるようです。

本講座では、当センターで収集した専門職連携の実践例をご紹介します。専門職連携実践では、統計的な“エビデンス”と、患者の主観的な意思の調和や、創造的な対立の解決が必要となります。看護職は、患者・サービス利用者中心の専門職連携実践の要です。ですから、看護職には、研究成果を根拠として看護実践に活用する力と、それを多職種に伝え、多職種と連携して実践する力が求められます。看護職が患者・利用者中心の医療を、根拠をもって多職種に浸透させていく方法について考えてみたいと思います。

〔参考資料〕

1) チラシ

本件に関するお問い合わせ先
千葉大学看護学部（学部学務係 山田 眞規子）
Tel : 043-226-2453 Fax : 043-226-2382
E-mail : tag5660@office.chiba-u.jp

看護とエビデンス・なぜそれが必要か？
—多職種との連携に活かそう—
(専門職向け講座)

日時

平成27年10月18日(日) 13:30~15:30

場所

千葉大学看護学部

第2講義室(亥鼻キャンパス内)

千葉市中央区亥鼻1-8-1

主催: 千葉大学看護学部

後援: 千葉県 千葉市 千葉県看護協会

時間	講義内容等	講師等
13:00~13:30	受付	
13:30~13:35	開講の挨拶	千葉大学大学院看護学研究科長 宮崎 美砂子
13:35~15:00	看護とエビデンス・なぜそれが必要か？ —多職種との連携に活かそう—	千葉大学大学院看護学研究科附属専門職連携 教育研究センター (IPERC) 特任教授 大塚 真理子
15:00~15:30	質疑応答・まとめ	千葉大学大学院看護学研究科 広報渉外委員会 委員長 小宮山 政敏
15:30	閉講の挨拶	

《申込方法》

〇Eメール

自宅あるいは、職場の住所(内定通知書送付先)・氏名(ふりがな)・性別・職業・所属・連絡先の電話番号(日中連絡がとれる電話番号)を記載の上、下記メールアドレスまでお送りください。
メールの件名(タイトル)は、「公開講座受講申込(専門職)」としてください。

〇FAX

千葉大学看護学部のホームページ(<http://www.n.chiba-u.jp/15koukai.pdf/>)にある専用の申込用紙をプリントアウトして、必要事項を記入の上、FAXでお送り下さい。

先着順に「受講内定通知書」をお送りします。

【対象】 看護職、介護職、そのほか医療・介護従事者(100名)
(定員を超えた場合、お断わりする場合があります。)

【受講料】 2,000円(受講内定通知書をお送りする際、振込用紙を同封しますので、事前にお支払い願います。
なお、一度納入された受講料は返還できませんので、予めご了承ください。)

【受付期間】 平成27年8月31日(月)~平成27年10月2日(金)

【受講料納入期間】 平成27年8月31日(月)~平成27年10月7日(水)

※納入期間内に納入いただけない場合は受講できませんので、
必ず納入期間内に納入願います。

【申込先】 〒260-8672 千葉市中央区亥鼻1-8-1
千葉大学看護学部学務係 公開講座担当
TEL 043-226-2453 FAX 043-226-2382
E-mail kango-gakumu@chiba-u.jp



※お申し込みの際に記入して頂いた個人情報は、千葉大学看護学部公開講座業務以外には使用致しません。

看護とエビデンス・なぜそれが必要か？—多職種との連携に活かそう—

《講義概要》

一般に数値化できるデータを分析して証明したものを“エビデンス”と言い、エビデンスに基づく医療が不可欠なものになっています。看護の分野でも、“根拠に基づく看護実践”が必要とされています。数値化しにくいけれども、患者・サービス利用者の主観的な意思を反映した看護実践の研究が蓄積されるようになり、患者・サービス利用者に寄り添う看護ならではの研究が発展しています。

一方、医療安全や患者中心の医療の観点から、多職種の連携協働が求められています。しかし、患者中心の医療が重要と言いながらも、そうならない現実があるようです。専門職間には“エビデンス”の意味するところに違いがあり、それが対立の原因になることもあるようです。

本講座では、当センターで収集した専門職連携の実践例をご紹介します。専門職連携実践では、統計的な“エビデンス”と、患者の主観的な意思の調和や、創造的な対立の解決が必要となります。

看護職は、患者・サービス利用者中心の専門職連携実践の要です。ですから、看護職には、研究成果を根拠として看護実践に活用する力と、それを多職種に伝え、多職種と連携して実践する力が求められます。看護職が患者・利用者中心の医療を、根拠をもって多職種に浸透させていく方法について考えてみたいと思います。

《交通アクセス》

■JR千葉駅から、バスのご利用案内

JR千葉駅東口の改札を出て直進し、駅舎を出るとバスターミナルがあります。7番乗り場から、京成バス「大学病院」行き、または「南矢作」行きに乗車し、「医学部入口」(5番目のバス停)で下車してください。千葉駅から所要約15分です。

医学部の正門を入りましたら、左へお進みください。左側つきあたりが看護学部棟です。



第2講義室は、看護・医薬系総合教育研究棟(中棟)の2階です。

看護学部案内図

